

支援忘れず「次の一歩」へ



【大阪市内で】

学び続けることで
変化に対応したい

田中 杏奈

私は4月から教員として働きます。児童が「受けていて楽しい」「受けていて分かりやすい」と思える授業を作っていくことができるように頑張っていきたいと思っています。

言語聴覚士として
今後も精進続ける

角浦 葵

2年間の学校生活はとても慌ただしかったですが、乗り越えることができました。特に今年度は長期の実習もあり、とてもよい経験をさせていただけました。その中で勉強と経験がまだまだ必要だと感じる場面が多々ありました。国家試験に合格し、こ

れからも言語聴覚士として精進していきたいと思っています。大変お世話になりました。

我が家のような
安心感に支えられ

槻 果音

私は助産師になるという夢を持ち、寮生活を送っていました。その中で、寮長や寮母さんが「おはよう」「やおかえり」と温かく迎えてくださることが、私にとって大きな支えでした。どんなに疲

れたいも、その一言を聞くと、まるで家に帰ってきたかのような安心感を感じることができました。4年間、本当にありがとうございました。

松藤 麻里

私は大学卒業後は大学院に進学します。大学院での目標は卒業研究のテーマにしている音声認識の分野で専門知識を深めるとともに、知的好奇心を満たしながら、学術的にも有効な成果を出すことが目標です。

また、高度情報人材を目指すことで社会に貢献したいと考えています。大学院卒業・就職後はこれまで支えてくれた家族に恩返しをしていきたいです。

だんだん気付いた
「寮生活」の快適さ

松本 浩輔

寮生活が始まり、大学の近くから離れたため、最初は移動時間の点で不便を感じることもありましたが、だんだんと寮生活の快適さや楽しさに気付きました。例えば食堂の制度、各部屋の設備・金銭面のサポート、学生同士の交流などです。さらに山科の寮を勧め

のおかげで学生生活を送れました。支えてくださり、ありがとうございました。

受け取った優しさ
今度は与える側に

荒木 源太

学校生活、寮生活を振り返って、さまざまな人の優しさに支えられた2年だと感じました。学校ではいつも遊びに誘ってくれる友達やテスト勉強を要約して教えてくれる友達、相談に乗ってくれる友達など本当に恵まれた学生生活でした。寮生活では温かくお話しご飯と、いつも明るく話しかけてくださる食堂の従業員さんのおかげで寂しさもなく過ごすことができました。

寮に任zんていなければこの出会いはありませんでした。毎日帰ると温かいご飯を食べられて幸せでした。私が今健康なのは寮のおかげです。寮生活ができたのは心塾のおかげです。4年間本当にありがとうございました。

他者との付き合い
大切に過ごしたい

由良 嘉隆

専門学校での2年間は自分に対して本気になれた平面、周囲との関係はいまひとつだった。目標達成のため自分だけを見つめ、視野を狭めていた。学内で孤立していた自覚がある。周囲からも「もっと人と関わりたい」と言われていた。

容易に目標は達成できなかったが、自分のやり方に乱暴さを感じている。それはそれで良いと割り切ることにするが、編入先（の大学）では人付き合いも大切にして過ごしたい。

生涯の友にも出会う
今の自分「寮」のお陰

鈴木 音寧

自分が孤独を感じている時、挨拶をしたり、「いただきます」と言うだけで、嬉しくて安心できました。食堂を通じて出会った友人もいます。その友人は中国から来た子で、就職活動もお互いを励まし合いながら頑張りました。一生、関係を続けたいと思っています。

寮に任zんていなければこの出会いはありませんでした。毎日帰ると温かいご飯を食べられて幸せでした。私が今健康なのは寮のおかげです。寮生活ができたのは心塾のおかげです。4年間本当にありがとうございました。

周囲の支援忘れず
学芸員の夢を追う

杉山 紗南

私は幼い頃から博物館や美術館が好きで、博物館に携わる仕事をしたいと思っていました。大学生になり学芸員の資格の授業を受けて、学芸員になりたいと思うようになりました。私はこの学生

生活は夢をかなえることを第一に歩んできたと思っております。しかし、そのように歩んでいけるのも、周りの環境が恵まれているからこそできたことだと思っています。

充実した大学生活
一層の努力続ける

上木 翔陽

大学での6年間はとても充実した日々を過ごせました。コロナ禍で途中大変な時期もありましたが、友達や先輩後輩たち仲間にも恵まれ、勉強や部活、バイトなど今しかできないさまざまな経験を積み重ねることができました。

この6年間で得たことを今後の糧として、より一層努力し、素敵な社会人となるよう頑張りたいと思います。

サークル活動で知る
人に教える難しさ

植松 健太

4回生ではサークル活動に力を入れた。私のサークルはボラン

ティア活動を行っている。4回生で最後のサークル活動ということもあり、私自身にできることはなにかと探し続けた結果、最後の年は子どもの学習面での改善を行い、アドバンスなどを通じて後輩たちに教えていく年であった。このことで、私自身、後輩に対してアドバンスすることや教えることの難しさ、学習者に対する接し方や教える難しさといった経験を学んだ。

支えてくれた方への
感謝忘れず社会へ

佐野 杏澄

寮生活を振り返ると、金銭面でのサポートが本当に大きかったと感じます。月曜から土曜の朝晩は無料で食事が提供され、光熱費や水道代もかからず、安価で生活できたおかげで、勉強や活動に集中することができました。また、その分、人との交流の機会にも遠慮なく参加でき、さまざまな価値観に触れることができました。

自転車などヘルメット着用を 「春の交通安全運動」4月6日から

春の全国交通安全運動（4月6日～15日）を前に、関係機関・団体は重点の一つとして、自転車や電動キックボード（特定小型原動機付自転車）乗車時のヘルメット着用や交通ルールの遵守徹底を改めて呼びかけている。

に急速に普及する電動キックボードに関しては16歳以上なら免許不要となった1昨年7月からの1年間で219件の事故が発生。交通違反での検挙件数は2万5156件に上っている（警察庁調べ）。道交法改正により、昨年11月からは自転車利用時の酒気帯び、ながらスマホにも罰則が新設・強化されている。

あかりの「背骨」が折れた

「推しが燃えた。ファンを殴ったらしい」

5人組アイドルグループの真幸が暴力沙汰を起した。SNS大炎上の中、真幸はあっさり引退する。

高校生あかりは、真幸を推していた。4歳のとき客席から見上げた空飛ぶジェットパンがいまの真幸。推しのCD、DVD、写真の情報はファイルに保存。委細情報を小まめにブログに上げて、ファン仲間からも「ガチ勢」と一目置かれる。推しを推すことがあつた生活の中心で絶対で……背骨かな

でも、身の回りは切り盛りできず、部屋は散らかり放題。授業は上の空。母はわかってくれず、姉も頼れず、単身赴任の父はたまに

「二足歩行できない」生きづらさを抱えて、あかりはこの先も抱え続けるのか。

作者は、芥川賞受賞時21歳。「題材は明るく文体はポップ」という。行間からはA doさんの絶叫が聞こえてきそうな小説。が、深奥に重低音を埋め込み、絡み合う細かい伏線を精緻に織りこんだ小曲のよう。

この稿とシンクロして、リアル芸能界では、芸人と超人気アイドルが罪作りな所業で消えた。活字が火をつけ、映像が燃えている。

推し、燃ゆ

宇佐見 りん 著



(河出文庫 638円)

もう読んだ？

今泉 哲雄 心塾関西寮読書感想文講師